

Planning and Coordination

MACHINE TIME EXECUTION

REPORT (2003-6-2CYCLE)

Experimental Group	T545	Reporter	藤井 芳昭
Scheduled Period and Shift	2004年3月18日～30日 (33シフト)	Main, Sub, Para	Para

Experimenters: 藤井芳昭 (KEK)、金信弘 (筑波)、竹下徹 (信州)、川越清以 (神戸)、梶野文義 (甲南)、宮田等 (新潟) 他、合計27名

SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS

D 1 修理後の修正スケジュール通りに18日17:00からビームを使用し、学会期間中も実験を継続した。途中で若干のビーム停止があり、その分を積算した結果30日の21:00に所定の33シフトの測定を終了した。

本件T545はT517実験の完結編であるが、前回より飛躍的に向上したDAQシステムの恩恵を受け、マッピング測定においては各点1Mイベントを超える統計を貯めることができた。また多彩な測定メニュー、特に色々な光検出器を用いたテストを行なうことができた。

テストの結果については、4月19日からパリで開催されるリニアコライダー国際会議で報告すべく、鋭意解析中である。

PAC申請の時点では2004年夏に遅い取り出しラインはシャットダウンされるということであったので、今回は総決算とも言うべく多項目に渡る測定を展開した。その後の情報によると2005年夏まで運転が継続される様であり、さらなる挑戦を検討したい。

EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.

- ・ 2004年3月18日～30日 (33シフト) を実施
- ・ ビーム状態は良好、ダウンタイムもトータルで数時間程度と好調であった。

COMMENTS